

## 2009 年を振り返って！

米国の金融恐慌が瞬間に世界に広がり、我が国も自動車産業をはじめ未曾有の不況で明けた 2009 年でしたが、今なおその嵐は日本を覆って離れません。働き盛りは職を失い、希望に燃えて羽ばたくはずの若者は職が見つからず、また世論調査では出産適齢世代の半分以上の人が子どもはいらないと回答、今や日本人の身も心も冷え切ってしまっているといえます。

このような国勢に平穏と活力を取り戻すべき政治は、自民党から民主党へと大転換があり、官僚主導から政治主導への脱却をめざし休日返上で働く政治家の姿、また税金の無駄遣いを洗い出すべく「事業仕分け」には好感を持ちました。しかし、総理大臣自らのずさんな政治資金問題には、相も変らない政治家のマヒした倫理観や金銭感覚を象徴し、弁舌と本音の隔たりの大きさに落胆してしまいました。長い年月の中で病的状態にある感性や目線は、一朝一夕に治るはずもありません。

そんな世の中をさらに不安に陥れた新型インフルエンザの猛威には、現代の人間のひ弱さを痛感させられました。その一方で、自然の摂理に逆らうことのできない植物や動物たちは、身勝手な人間社会の影響により激変していく環境の中で、必死に生き抜こうとしている事実も次々に明らかにされています。わが町掛川市でも、かつては見ることもなかったイノシシが人々の生活区域で共生するようになり、今年にはクマまで出没し始めました。生物の生存に不可欠な地球環境が危機的な事態にあることを、もはやすべての人々が肯定し、その対策のためには少々不便な生活でも受容しなければならないのではないのでしょうか。しかし、そのことを世界規模で確認し、実効指針を立てるはずの COP15 は、先進国と途上国の折り合いがつかず、ポスト京都議定書は先送りされてしまいました。

このような世相の中で、わが「時ノ寿の森クラブ」の今年の活動は、どうだったでしょうか。3月には、「時ノ寿の森」を豊かな森に再生するために、宮脇昭・横浜国大名誉教授を招いて広葉樹 6000 本の植樹祭を開催しました。4月以降は、国土緑化推進機構・毎日新聞社と三者連携による「つながる森プロジェクト」がスタートし、間伐材有効活用のための「伝統木造構法」「木炭利用」「製紙パルプ利用」など啓発や実験を精力的に実施してきました。今後の見通しは、まだ不確かではありますが、クラブ本来の目的「森林再生」に向かって大きく出発した1年でありました。

地球環境の異変はますます加速しており、11月17日開催された間伐材活用シンポジウム基調講演で山本良一・東京大生産技術研究所教授は、「危機的な地球環境への対策はもう待ったなしの事態だ」「国土に蓄積されている森林資源の有効活用こそ効果的な対策だ」「中でも木炭・バイオマスは世界が注目している」とおっしゃっていました。厳しい経済情勢の中で、企業や一般市民に対して環境対策の視点を説き、物心両面の協力を広めていくことは容易なことではありませんが、ピンチこそチャンスです。先人や気候風土が育んでくれた国土の森林が地球環境を守ることになるならば、その森林資源を活用することは、今を生きる私たちの使命ではないでしょうか。

時ノ寿の森クラブは、趣旨に賛同する会員自らの楽しみとともに、未来の子どもたちに豊かな自然環境を残すために、2010 年も森林再生に邁進してまいります。会員の皆様の一層の御支援・御協力をよろしくお願い申し上げます。

## <2009年のブログより>

2009年11月22日(日)

11月17日に東京で開催された間伐材活用シンポジウム「豊かな森林を次世代に引き継ぐために」のパネルディスカッションで、私が述べた「森林再生の現状と課題」と「時ノ寿の森クラブの将来ビジョン」です。

### 『他人任せの森林育成』の構造からの脱却と 継続的な取り組みの必要性

いま全国の森林が荒廃しています。その原因は、日本の社会の中で、かつてのように国産材が流通しないからです。昔は、地域の森林から伐り出された木材が、地域の製材所で加工され、建築などあらゆる製品に利用されていました。そして、所有者の責任で植林され、一定時期に間伐や皆伐が行われ、美しい森林が保たれていました。

しかし、生産価値の低くなった森林は、もはや所有者の責任で保全されていくのは困難になってしまいました。すでに間伐されない森林は、昼でも真っ暗な状態で生物は棲めなくなっています。速水さんのように、広大な森林を所有され、美しく立派に維持管理されている方もいらっしゃいますが、森林を管理できないという人は、森林を持っているべきではないのかもしれない。



日本各地には、小規模で、かつ転売や相続を繰り返して地主が分からないという森林が多いのが実態で、時ノ寿の森も同様です。地形は急勾配で、25haの森林面積の所有者は23人もいて、中には市外や県外の人でも所有しているのです。このような森林をどうやって保全していくかということが、大きな課題です。

このような森林は、所有者の責任だけではなく、森林の公益的な機能を広く一般市民や企業が理解すること、そして国や行政も国土保全という視点から支援すること、この連携が大事だと思います。時ノ寿の森クラブでは、このような考えに立ち、静岡県の森林税による森の力再生事業を活用して間伐事業を始めています。クラブは、間伐の機械力も技術力もないので、民間企業との連携により間伐事業の実施主体になります。クラブの最大の使命は、社会的信頼により、広範囲に分散している大勢の森林所有者をまとめ上げることです。例えば小さな面積でも、所有者が同意してくれなければ、その森林の間伐を実施することはできないのです。

しかし、静岡県の森の力再生事業による間伐は、切り捨て間伐のため、これだけでは森林再生は十分ではありません。間伐により立派な木材が発生するのですから、その資源を有効に活用すること、また引き続き間伐後の森林を保全していくことが重要です。

時ノ寿の森には、130種類以上の多様な樹種が生えており、大人の両腕でも回りきらないほど太い「縦の木」や「ヒメシャラ」、「スダジイ」や「コナラ」が立っている森があります。クラブでは、間伐後の森林の保全を目的に、所有者から10年契約で森林を借用しています。森林を保全していくには、森林の恩恵を多くの人に体験してもらうことが大切です。所有者から借り受けた森林には散歩道を整備し、森の好きな人に安心して森を味わってもらい、「時ノ寿のファン」になっ

てもらおうと思います。そして、いつまでも「時ノ寿の森」を愛しく思っていたら、気軽に森を訪れていただける環境を整えたいと考えています。

もう一つ大事なことは、森林再生には長い時間がかかるということです。森林再生活動を私たちのようなボランティア団体が継続していくには、行政などの支援だけではなく、活動資金の一部を自活できるシステムを作ることが必要です。その方策は、間伐によって発生する間伐材を「切捨て」から「利用」に転換することだと思います。時ノ寿の森クラブでは、毎日新聞社と国土緑化推進機構と連携し、間伐材を利用促進する仕組みづくりやモデルケースづくりに挑戦しています。その事例の一部を紹介しましょう。

その一は、間伐した丸太を製材して、建築材に利用してもらうことです。国内で育ったスギやヒノキのぬくもり、香りが心地良い伝統的な木造の家が、どんなに「カラダ」に適しているかを普及することです。時ノ寿の森に建ててある「森の駅」を、モデルハウスとして多くの人に見学・体験してもらいたいと思います。

その二は、間伐したスギ・ヒノキの針葉樹を炭に焼いて、生活の中で吸湿や消臭に利用してもらうことです。針葉樹の木炭は燃料としては適しません、吸湿・消臭効果は抜群です。間伐材なら容易に炭の原木も作れるので、格安に提供できます。

その三は、スギ・ヒノキ材を紙の原料に利用することです。現在国内の製紙業界のパルプの原料は、その6割以上が海外の木材だそうです。国内に大量に蓄積されている森林資源を有効に使うことこそ、日本が行うべき環境政策ではないでしょうか。みなさんも、少くとも高くて間伐材で作った紙を使用してほしいと思います。

国土の荒廃を救う森林再生を持続していくには、私たちのようなボランティアと大都市の消費者であるみなさんが、両輪となって間伐材の有効活用を進めていくことが重要ではないでしょうか。

## 個人個人が取り組むべき環境保全と森林再生

今日の社会の中で、消費者・企業が共通に求めているのは「効率」「便利」「コスト」です。その目的を達成させるためには、世界や地球のどこかに大きな「ストレス」を与えているということ、私たちは知る必要があります。

日本は、国土の約70%が森林で、フィンランドに次ぐ世界第2位の森林王国であるということ。しかし、木材の需給率は22%しかないということ、今日はぜひ知ってほしいと思います。このように木材資源が充実していても、国産材が外国産材と競争していけないのが現状

です。それには、小規模で分散している国内の森林では、大規模化や機械化がうまく進まないという問題もあるのでしょう。しかし、それらの問題は、国や各機関で検討されているので、私は、「未来の子どもたちのために環境を守る」という意識を持ち、森林再生活動に皆さんが進んで参加いただきたいと強く申し上げたいと思います。そういう意味から、会場のみなさんが参加できる環境対策としての森林再生活動をいくつか紹介しましょう。

前のスクリーンに映っているのは、日本の伝統的な木造構法で造った時ノ寿の「森の駅」です。国産材や間伐材を使うということは、森林再生をバックアップする大きな力になります。高温多湿な気候風土の中で理に叶っていて、環境対策を重視する現代でもそのまま通用します。環境にも住む人のカラダにも配慮した家づくりの知恵には、感心してしまいます。優れた点をいくつか



上げてみましょう。

まずは、呼吸する素材といわれる無垢のスギ・ヒノキを隠さず、表に出していますので、木のぬくもりや香りが時間とともに味わいを増していきます。そして、軒が長いということです。窓を開けても雨は振り込まないし、強い夏の日差しも軒がさえぎってくれます。また、壁は土壁ですので、熱の変化が小さいため夏はヒンヤリとし、冬は暖房によって暖められればいつまでも冷めることはありません。

先日、見学会を開催したところ、大勢の人たちが見に来てくれまして、みなさん「こういう家に住んでみたい」と素直におっしゃいました。そして若い方でも「カッコイイ」といってくれました。間取りやコストの面でも、伝統木造構法を選んでもらえるように、「森の駅」建築に参加した設計士や職人たちが相談に乗ります。

二つ目は、写真にも写っていますが、この家の暖房は中央にある薪ストーブです。薪ストーブの熱量は大きいので、これ一つで家中が暖かくなります。燃える炎は、人の心まで暖かくしてくれて、炎を見ながらの時間はまさに至福のときです。そして、燃料が二酸化炭素を吸収した木材ですので、森林王国のエネルギーとしては、循環する持続可能な素晴らしいエネルギーシステムであると思います。

三つ目は、写真には見えませんが、この家の床下には 500kg の木炭が敷詰めてあります。市中にも床下調湿炭として商品が出回っていますが、結構な価格のため、敬遠されてしまいます。しかし、最近、化学物質への過敏症に悩む方が増えていますので、化学物質も吸収すると言われる炭を大いに使っていただきたいと思います。コストが低ければ、多くの方が床下に敷いてみたいと思うのではないのでしょうか。

最後に、私たち時ノ寿の森クラブの大きなビジョンをお話したいと思います。先ほども申しましたが、日本の森林は、一人一人が小規模の森を所有し、分散しています。これから先、所有者が維持管理できなく、さらには所有権や存在まで不明朗な森林が、増えていくと思います。最近、日本の森林が木材や水資源を目的として、海外の資本に狙われているという事実もあります。狭い国土の日本にとっては、とても危険な怖い話です。

時ノ寿の森クラブでは、かつて知床の原生林を守るために始めた日本のナショナルトラスト草分けの「知床 100 m<sup>2</sup>運動 知床に夢を買いませんか」に学び、ナショナルトラストによる森林再生運動を、日本のど真ん中に位置する「時ノ寿」で社会実験してみたいと本気で思っています。

いままで森林の環境を守って来てくれた山村集落が、全国から次々に消えようとしています。都市や町で生活されるみなさんにとって、このような状況に危機感を持っていただくことは難しいかもしれませんが、でも、大切な国土を守っていくためには、そこに住む人だけでなく、広く社会全体で協力することが大事だと思います。

「時ノ寿の森クラブ」は、社会の多くの方がステータスとしてクラブ会員になってくださるように、一生懸命に努力してまいります。会場の皆様からも、ご助言やご意見をいただければ幸いです。

2009年12月2日(水)

## 日本の原風景を守る農業

一昨日のブログで、荒廃農地の保全に情熱を燃しているわがクラブ会員の藤本将さんの事を書きましたが、今朝の毎日新聞の特集「日本の農と食を訪ねる」で、新潟県十日町市の棚田を守る稲作農家の田中磨さん(30歳)が登場していました。豪雪地帯で、かつ



手作業の多い棚田での稲作を敢えて選んだ田中さんの言葉に感動してしまいました。彼は次のように言っています。「棚田からはヤジリや住居跡が見つかります。大昔からこの土地に人々が住んでいたのです。私はここで生まれ、育ちました。小学生の頃からコンバインを動かしたりして、やっぱり一生ここで仕事をするのがいいかな、と子どもの頃から思っていました。」と。

私の育った山村集落は、34年前に廃村となってしまいましたが、先人たちが山村で生活していたからこそ、里山の自然や生態系が守られてきたんだと、あらためて確信いたします。田中さんのように若い青年が、このように農業にロマンを求め、ひいては日本の国土を守ってくれているということ、多くの人に理解していただきたいと思います。

私の場合は、棚田ではありませんが、静岡県掛川市の里山で6年前から耕作放棄地を借り、稲作に挑戦しています。15aほどですが、無農薬・有機肥料のみで栽培し、刈り取った稲はなぜ掛けして天日乾燥して脱穀します。こだわりの週末農業は、年中無休となりますが、そこで得られる充実感と自然との対話の時間は何にも代えられません。

さあ、みなさんも思い立ったときが吉日といえます。来年は、私と一緒に週末農民で自給米に挑戦してみませんか。何でも教えますから、心配いりませんよ。お待ちしております。

2009年11月16日(月)

## 便利とは人間がサボること

私は、週末を利用して、社会から価値を見放された森林資源を活用したり、耕作放棄された農地を開拓して米を作っています。効率やコストを求める現代社会には歓迎されないかもしれませんが、手間暇かけたものづくりこそ日本の伝統技術であり、日本人の精神だと思います。

16日付け毎日新聞の「時代を駆ける」という欄に、脚本家の倉本聡さんが登場され、倉本さんの素晴らしい新作舞台「帰国」の脚本のことが書かれていました。舞台は、南の海で玉砕した英霊たちが60余年ぶりに祖国に帰る物語だそうです。その中で、英霊の部隊長が「便利とは人間がサボること・・・(中略)。ヒンコウ(貧幸)という言葉を知っていますか。貧しくて困る貧困は避けたいが、貧しくとも幸せな生き方はできます。私たちの暮らしはそうでした」と叫ぶのだそうです。

倉本さんは、次のように語っています。「貧幸は、僕の造語です。貧しくても幸せな暮らし、貧幸という言葉があってもいいと。幸せでない豊か、リッチと比べたら、僕は貧幸とっちゃう。日本では、家に家電製品の量が増えてくるに従い、幸せの量が反比例して減っていった気がしてならないですね。」と。私は、自らの生き方とも重なり、感銘してしまいました。



2009年4月13日(月)

## 「交流」は地域を興す

昨日、浜松市天竜区春野の山里で味わった感動をお伝えします。山村の暮らしを愛する住民たちが、美しい春爛漫の山里に県内外から多くの人々を招いたイベントでした。

山里に暮す人々の純粋な思いによるイベントには、定員の2倍に達する希望者があったそうです。住民のみなさんは、さぞかし大変だったでしょう。「近者悦ばば 遠者来る」という孔子のことばがあるそうですが、まさにそこに住む人々が土地を愛し、明るく、いきいきと暮らしていれば、そこには遠方からも人々が集まってくるのです。そして、出会いや交流が生まれるのです。

スタッフに関わっていた若い青年たちに聞くと、東京や千葉から来たというのです。かつて、彼らが東京工学院大学の学生時代、夏にはOさん宅に泊まりでお世話になったそうで、その恩返しにぜひ応援をしないと、深夜に駆けつけてきたというのです。なんと心温まる話でしょう。



効率やコストを追求するあまり、義理や人情が忘れられている今の日本社会ですが、このような美しい心を持った若者たちが、世の中にはたくさんいるということ、社会はしっかりと見つめるべきだと思います。そして、このような若者たちが、力を出せる社会の仕組みに変えていきたいものです。時ノ寿の森クラブも、このような若者たちといっしょに森林再生事業を発展させていくことが夢です。

## 21 年度会費未納の方は納入ください！

今年度の会費は、9月20日の定期総会までに納入くださるよう通信10号でお願いしましたが、ご多忙な中で納入いただけてない方がいらっしゃいます。年の瀬でご多忙とは存じますが、年賀状を投函なさる折にでも、同封の郵便振込用紙にて納入いただければ幸いです。なお、会費振込用紙は、未納の方のみに同封してございます。

## 携帯メールによる随時連絡の運用！

会員の皆様の積極的なご参加をいただき、クラブ活動は活発になっています。現在、活動スケジュールを約3ヶ月ごとに通信を発行してお知らせしています。しかし、3ヶ月の間には計画の変更や追加、又は荒天による中止や延期もあります。

よって、新年からは、会員の皆様に迅速に情報をお届けするため、通信に加えてお持ちの携帯電話にメール配信もいたしたいと思います。活動にご参加いただける方で、まだクラブ事務局にメールアドレスを登録されていない方は、事務局（松浦成夫）の携帯メール（[m-shigeo@docomo.ne.jp](mailto:m-shigeo@docomo.ne.jp)）までテスト送信してください。

# 1～3月のクラブ活動予定

この予定表をカレンダーに貼り、都合の良いときに気兼ねなくご参加ください。

月/日	曜	時間・場所	行 事 内 容
1/10	日	9:00～14:00 森の駅  15:00～17:00 森の駅	<b>定例活動日（雨天決行）</b> ★GPS測量機械講習会（講師：三重県吉田林業） 講習内容：写真入の楽しい「時ノ寿の森マップ」を作ります。 持 ち 物：弁当、水筒、山歩き可能で寒くない服装 ★山の講（新年会） ・新春初顔合わせ、山の神様に山仕事の安全を祈願。辛党はお神酒・ビール・肴で、甘党は、お汁粉・お茶・お菓子で楽しく語り合います。 ・お酒が飲める会員は、絶対に自家用車で参加しない。家族又は会員相互で乗り合いで参加してください。 ・会費は、一人1,000円（当日徴収） <b>1/6（水）までに電話又はメールで参加申込して下さい。</b>
1/17	日	9:00～15:00 森の駅	<b>臨時活動日（雨天中止）</b> ★林内作業車講習会（講師：県内先進団体） 講習内容：作業車の安全操作による材木搬出方法 持 ち 物：弁当、水筒、山仕事の服装
1/22 ～ 1/24	金  日	22日 19:00 発 車中1泊 旅館1泊 24日 19:00 着	<b>先進地視察研修</b> 視察先：土佐の森救援隊（高知県の町） 研修内容：林内作業車による材木搬出作業 参加人員：8人（申込順） 参 加 費：15,000円程度（宿泊・食事代） 交通手段：レンタカーワゴン車1台 <b>1/6（水）までに電話又はメールで参加申込して下さい。</b>
2/7	日	9:00～15:00 森の駅	<b>臨時活動日（雨天中止）</b> ★3/14 植樹祭の準備作業 作業内容：作業道、地ごしらえ、会場づくりその他 持 ち 物：弁当、水筒、山仕事の服装
2/14	日	9:00～15:00 森の駅	<b>臨時活動日（雨天中止）</b> ★3/14 植樹祭の準備作業 作業内容：作業道、地ごしらえ、会場づくりその他 持 ち 物：弁当、水筒、山仕事の服装

月/日	曜	時間・場所	行事内容
2/21	日	9:00～15:00 森の駅	<b>定例活動日（雨天中止）</b> ★3/14 植樹祭の準備作業 作業内容：作業道、地ごしらえ、会場づくりその他 持ち物：弁当、水筒、山仕事の服装
2/28	日	9:00～15:00 森の駅	<b>臨時活動日（雨天中止）</b> ★3/14 植樹祭の準備作業 作業内容：作業道、地ごしらえ、会場づくりその他 持ち物：弁当、水筒、山仕事の服装
3/6	土	9:00～16:00 森の駅	<b>臨時活動日（雨天中止）</b> ★3/14 植樹祭の準備作業 作業内容：作業道、地ごしらえ、会場づくりその他 持ち物：弁当、水筒、山仕事の服装
3/7	日	9:00～16:00 森の駅	<b>臨時活動日（雨天中止）</b> ★3/14 植樹祭の準備作業 作業内容：作業道、地ごしらえ、会場づくりその他 持ち物：弁当、水筒、山仕事の服装
3/13	土	12:00～17:00 徳育保健センター  9:00～16:00 時ノ寿の森	<b>宮脇昭先生講演会（雨天決行）</b> 公演時間：午後2時～午後4時 会場：徳育保健センター（2階ホール） 定員：200人（入場無料） 役割：クラブ会員は講演会と植樹祭のスタッフに分かれて各種の役割に当たる。（詳細は講演会が近づいてから連絡。）  <b>植樹祭準備（雨天決行）</b> クラブ会員は講演会と植樹祭のスタッフに分かれて各種の役割に当たる。（詳細は植樹祭が近づいてから連絡。）
3/14	日	8:00～15:00 時ノ寿の森	<b>植樹祭（雨天決行）</b> 時間：午前10時～正午 場所：時ノ寿の森 定員：300人 役割：クラブ会員は植樹祭スタッフとして各種の役割に当たる。 （詳細は植樹祭が近づいてから連絡。）
3/21	日	9:00～16:00 森の駅	<b>定例活動日（雨天中止）</b> 作業内容：植樹祭片付け 持ち物：弁当、水筒、山仕事の服装